

# VISION

## VISION PAPER 03

VISION PAPER は、VISION GLASS JP が不定期に発行するフリーペーパーです。VISION GLASS を毎日使う私たち（國府田 / 小沢 / 板垣）が、このグラスに関わる人、出来事、生活、風景を主観的に切り出していきます。そこには VISION GLASS 的な存在感、すなわち日々の暮らしに対する納得感と清潔感が立ち現れてくるのではないかと考えています。

### NEWS

- ・ VISION GLASS WAREHOUSE が蔵前に完成しました
- ・ 2ヶ月に及ぶ、SHUN-NE 巡回展終了。ご高覧ありがとうございました
- ・ インド工場での生産ライントラブルが解消。6月末、待ちに待った入荷です

### EVENT

- 7/7( mon )~ 13( sun ) SUKINAMON @ 六本木ピリオン ( 協賛しています )
- 7/13( sun ) VISION TABLE 06 @ モコモシアトリエ
- 7/19( sat ) LASSI STAND / mocomeshi SPICE PHARMACY @ BRICK & MORTAR ( 中目黒 )

### VISION GLASS とは

インドの実験器具メーカーが製造する耐熱グラス。直火にもかけられる堅牢さとシンプルなデザインを兼ね備える。國府田典明とモコモシ（小沢朋子）が2011年にインドで見つけ、2年の準備期間を経て2013年より日本への輸入販売を開始。詳細は [visionglass.jp](http://visionglass.jp) へ。FB ページもやっています。

発行元 VISION GLASS JP ( 國府田典明 / 小沢朋子 / PR : 板垣潮美 )  
〒110-0016 東京都台東区台東 1-16-4 大沼ビル 1F TEL 050-3597-6852  
Special Thanks : 10<sup>12</sup>TERRA、ゆずりは、SUNDAY SEASIDE、キタムラマサコ  
Copyright © 2014 VISION GLASS JP All Rights Reserved.

2014/04~06

SHUN-NE [ 春 根 ] 巡回展を終えて

梅雨入りまもない6月上旬、2ヶ月ほど開催していた SHUN-NE[ 春 根 ] のクロージングパーティーを無事に終えた。SHUN-NE[ 春 根 ] は、「ゆずりは」<sup>1)</sup> 店主の西さんが、10<sup>12</sup>TERRA[ テラ ]<sup>2)</sup> の妻沼さんと山田さんにイベントを依頼した際、彼らが VISION GLASS で水耕栽培が出来る専用のプロダクト「LiD of VISION GLASS」を考案してくれていた事がきっかけで実現した。その「LiD of VISION GLASS」をはじめ、10<sup>12</sup>TERRA の水耕栽培容器「hydro」、ゆずりはセレクトの多肉植物やエアプランツ、ガラス作家キタムラマサコさんの一輪挿し、SUNDAY SEASIDE 島村さんの活版印刷で作る植物カードを揃え、この時期に良く伸びる根を春に観察する事を意味する「春根」（しゅんね）という造語をタイトルに、全5カ所（古河、国立、中目黒、湯島、蔵前）の観測地をめぐる巡回展だった。

期間中、各々が先生に扮しワークショップも開催した。「春根実験室」と題し、直火対応の VISION GLASS に入れたお米をアルコールランプで炊いてみる炊飯実験、土の積層を楽しみながら多肉植物の寄せ植えをするゆずりは寄せ植え実験、煮込んだ葉から取り出した葉脈をスタンドグラスに挟み標本を作る 10<sup>12</sup>TERRA 葉脈採取実験の3種類。参加者の中にはコンプリートの強者もいた。期間終了した今でも、嬉しい事に次回開催への問い合わせをいただいている。

私は VISION GLASS 炊飯実験の先生としてワークショップを行う事になり、実験と言えはやっぱり白衣だろうと、白衣や実験道具を買い込み当日を迎えた。予想外に方々から白衣が似合うとご好評をいただき、今ではその白衣キャラクターが定着しつつある。ちなみに、最近話題だった割烹着姿の某細胞研究者との関係性について質問を受けたが、これは全くの偶然である。



左と中下：SHUN-NE@蔵前の展示の様子 / 中上：SUNDAY SEASIDE さんによる展示のためのイラスト  
中右：LiD of VISION GLASS と多肉植物 / 右：葉脈採取実験用の葉

インド製の VISION GLASS を日本に紹介し始めて約1年。この SHUN-NE を通じて、改めてこのグラスが持つシンプルな形状の中にある余白が、新たな使い方を自由に想像させてくれるのだと感じた。VISION GLASS の新しい価値を発見する良い機会となり、モノ作りへの姿勢に共感出来る魅力的な人々とのご縁がじわりじわり広がっていく様と、植物が発根し成長していく姿とが重なる思い入れのあるイベントとなった。(シ)

( 1 ) 茨城県古河にある植物と器の店  
( 2 ) スタンドグラスの技法を用いた多肉植物用の水耕栽培容器を提案しているブランド

